

あゆみ通信

VOL.135

あゆみの会(真宗大谷
派大阪教区第2組同朋
の会推進員連絡協議会)
会長 浪花 博
広報 本持 喜康

門徒会と合同の例会へご参加を



清澤満之師

新たな年を迎えて、最初の例会です。宗祖親鸞聖人のご縁で共に教えを学ぶことを目的として、第2組門徒会と合同の研修会です。

第2組という僧伽(サンガ)です。

サンガとは、インドでのお釈迦様を中心とした教団です。ご存じのように、インドではカーストという身分制度で成り立っている国です。厳然と差別があります。

その中で、「善来比丘、ようこそ来られた」と言って、お釈迦様は、どんな人も平等に受け入れられたのです。

コラムで紹介した延塚先生はその師松原祐善先生から聞かれた清澤満之師の思い出で、

「16歳で清澤先生が、覚音寺で得度されたのは、いつもお母さんと聞法に行き、宗祖親鸞聖人への信頼があったからだと言われます。覚音寺での念仏の僧伽、つまり、お寺に来たときは娑婆で何をしていてもみんな平等である。自分の生きを本当に話合える友達だから、親鸞聖人の前では平等だという念仏の僧伽に、小さい時から触れていたからです。だから浄土の功德が実現している僧伽こそ、実は本当に人間が求める世界だと感じていたに違いないのです。」「宗門改革の時に先生は、「大谷派なる宗門はいずれのところにあるのか。それは大谷派なる精神の存するところにある」と言われて、本



松原祐善先生

当に仏教が生きているところに大谷派の宗門があると言われた。」「(「続清澤満之と歎異抄」)

つくづくとですが、清澤満之師は、すごい人だと思いますし、そのことが今日に引き継がれていることに、ただただ感銘を受けます。

第2組の聞法会もそういう意味を持つと、改めて感じました。その思いを、私たちでも続けたいものです。(本)

門徒会とあゆみの会 合同研修会 ご案内

日時 3月30日(月) 13:30

会場 光照寺(天王寺区上汐)

講題「信心について」

講師

澤田秀丸先生

(12組 清澤寺前住職)

参加費 無料

なお、受付ではあゆみの会と門徒会の年会費も受け付けます。よろしくお願ひします。

これも、王来王家先生(大阪教区駐在教導)からお聞きした話ですが。(NHKで放送されたの



緊急告知

3/7第35回第2組同朋大会と3/9大推協公開講座はいずれも、中止です

先にご案内していただいた第35回第2組同朋大会と大推協公開講座は、新型コロナウイルス感染拡大のため、残念ですが中止となりました。皆様には、十分、体調管理にご注意ください。

月光仮面になっていた自分?

振り返れば昨年は、やれ東日本の復興が手付かずだとか、福島原発の作業が遅れているとか、汚染水を処理水と言ってごまかしている事故調とか、また、安倍政権は高齢者に自分の負担を強いている。また、毎年、どこかで災害が起きているのに、国は地方任せで、抜本的な防災対策も出来ないなど、怒りに任せて仏弟子とは思えない、世間的なコラムを書いてきました。

今年、敬愛する延塚知道先生の本を読んで、先生の言葉にガツンと一発、頭に拳骨をくらった気がしました。曰く「最近の宗門事情を見ていると、いかにも正義に立ったり、良心に立つ批判ばかりが賑やかになされています。正義や良心は人間にとっては大切なものですから、世間の立場に立つ限り立派な批判に聞こえるでしょうし、世間の大半の理解を得るでしょう。しかし正義や良心が人を殺してきたのが人間の歴史ではないですか。その限りその時は正しいように聞こえても、所詮、世間の批判であることに変わりありません。親鸞聖人はそんなことを言っているわけではないでしょう。人間の良心や正義感の中にこそ、地獄・餓鬼・畜生をつくっていく本があると、阿弥陀の智慧に見抜かれた深い悲歎に立っているのです。そこが分からないで、自己主張と変わらない世間に立った批判にうつつを抜かす暇があるのなら『歎異抄』をよく学ぶべきです」(「続清澤満之と歎異抄」2005年文栄堂)

正に先生の指摘の通り、我が正義を振りかざし、月光仮面になった？つもりで、私自身の立場を考えないで、世間の批判を振り回していた気がする。猿でもできるが「反省」。気付かせられた、聞法第一のスタートである。(本)

心の宝を見つめる

と心に
支えら
れて自



藤井美和先生

で、見た方が
おられるかも)

「キリスト者
の方で関西学
院大学藤井美
和さんという
方は、大学で
『死生学』を
教えておられ

ます。先生ご自身も難病で死
の淵をくぐってこられたとい
うことで、そういうことにか
かわられるようになったので
すが、その授業が非常に面白
いのです。

20代の学生さんたちに死に直
面した人の気持ちの疑似体験
授業をされるのです。

授業では、まず、紙を渡さ
れ、そこに設問ごとに3つ思
うことを書くことから始まり
ます。設問は、

- ①形のある大切なもの
- ②大切な活動
- ③大切な人
- ④形のない大切なもの

一人の健康な学生が、突然癌
に冒され亡くなっていく過程
を日記を辿るかたちで疑似体
験します。それぞれの学生は、
日一日と死に近づく自らの姿
を思い浮かべながら、予め紙
に書いた大切なものを一枚一
枚破り手放していきます。

この授業で学生は涙を流しな
がら、死に向かい合う悩みや
苦しみを感じ取り、自分にと
って大切なものとは何かを突
き詰めます。それは心の宝を見
つめ、生き方を問い直すこと
でもあります。

ちなみに、最後の最後まで手
元に残るものは、①②は、早
い段階で捨てられますが、亡
くなる直前の最後まで残るも
のは、③「おかあさん」と④
「愛」であると。どんなこと
があっても見守り、心配して、
見捨てないのが母であり、愛
だというわけです。そこで、
学生の皆さんは、気付かされ
るのです。普段は①②に一喜
一憂しているが、そういう人

分(私)はあったのだと気付か
せられる。

龍樹菩薩が「十住毘婆沙論」
で「もし足ることを知らざる
ものは、たとい世間に満つる
財宝を得るとも意なお足らず」、
我々が根底で求めているもの
が何かを教えてください。

藤井美和先生は、2018年11月2
1日に、しんらん交流館で
「『いのち』に寄り添う—死
生学の視点から」と題して講
演されている。

先生は、新聞社在勤中、神
経難病を発症し、3日間で全身



© しんらん交流館

麻痺に。半年の入院、2年半の
リハビリを経験。この経験が
死生学領域に関心を持つき
っかけとなる。

では、「死生学」とは、何
でしょうか。字で書く通り、
「死ぬと生きる」ということ
について、考える学問ですが、
死に逝く人とどういう風な精
神的な苦悩、プロセスを辿ら
れるのかとか、どんなニーズ
があってどんなケアが必要な
のかと、ということも対象に
していますが、死というもの
を意識の中に置くことによっ
て、見えてくるもう一つの側
面「生きる」という。死とい
うもの意識して初めて、私
たちが死が来るまでどう生き
るかという、そういう課題が
見えてくると思うのです。

「生きる」という課題は、死
があるから出てくる課題でも
あるわけです。ですから、
生き方の中に死ぬということ
も考えていくというのが、
「死生学」の基本的な考え方
だと思うのです—と、藤井先生
は説明されます。皆さんは、
どう考えますか。

第2組日帰り ツアー募集中



あゆみの会第2回例会も兼ね
ています。第2組のご門徒の皆
さんと一緒に、ご参加ください。

日程 5月26日(火)
目的地 浄土真宗高田派総本山
専修寺参詣、伊賀上野城散策等
集合 8時30分天王寺公園
参加費 6000円
申込 4月末日までにお手次の
寺院へ

大推協の 本願奉仕募集!



大推協では、このたび大阪教区
同朋の会推進実行委員会と合同
で、下記の通り。真宗本願奉仕
研修を行います。会員の皆様
のご参加をお待ちしています。

日程 4月8日(水)～9日(木)
両堂参拝、諸殿拝観、清掃奉
仕、講義・座談

集合時間 4月8日10時30分
(11時までに入館を)
集合場所 真宗本願・同朋会館
講師 相馬 豊先生(研修道場
長、金沢教区第4上組道因寺)
テーマ これからのお寺
参加費 13800円(1泊2日宿泊)
なお、交通費は自己負担

大推協から3000円の助成有
持参品 真宗聖典、略肩衣、念
珠、勤行本、筆記具、常備薬、
その他必要なもの

申し込み 3月13日(金) までに、
大阪教務所 (06-6251-4720、王
来王家駐在教導、中嶋様) まで。
問い合わせも同様です。

または、細川 (06-6779-5349)
までお尋ねください。